

太田三郎 2018 年春 Ota Saburo, 2018 spring



Letter rack, 2018

草花の実や種子から戦没者の肖像写真まで、さまざまなモチーフを「切手」の形にした作品で知られる太田三郎。切手や消印を素材とし、「時間」と「場所」の関係性をテーマとする作品によって、さまざまな表現の可能性を追求しています。

初期の作品『Print Work』で切手と消印の「版画的なもの」に着目し、消印が記録する「時間」と「場所」を通して、存在するものの確認やその背景への想像を示唆する作品を展開してきました。郵便局でその日の消印を収集し、自身の存在を記録する作品『Date Stamps』は、1985年から現在も継続して制作しています。

1985年には椿の葉をカラーコピーした初のオリジナル切手『Camellia Leaf』を発表し、その後、海辺で拾った貝などの漂着物をモチーフにした『On the Beach』、さらに1995年からは植物の種子を和紙にはさんで切手にした『Seed Project』シリーズを繰り広げていきます。こうした複製と反復による版画的造形を伴うオリジナル切手シリーズのほかにも、椿の切手を実際の椿の葉（約4500枚）に貼って押印した『Camellia Circle』、広島に原爆が投下されてから45年後の日付の消印作品『Stamp-Map of Japan and Korea』、松尾芭蕉が辿った旅程を1997年の消印で構成した『奥の細道1997』など、インスタレーション作品も数多く発表しています。その後、兵士の肖像などをモチーフにしたオリジナル切手シリーズ、1994年以降現在も継続中の『Post War』シリーズ、シベリアに捕虜として抑留された山本幡男の遺書を記録した『最後に勝つものはまごころである』など戦争をテーマとした作品も多く、また2009年に発表した『あひるの子供たち』『石の小箱』では、社会的弱者の命の存在に向き合う作品も手掛けてきました。本展では、大量の使用済み切手を使用し、「2018春」を「かたち」にした作品を展示致します。待ち望んだ手紙が届いたときの幸福感を表したコラージュ作品『Letter rack』をはじめ、使用済み500円切手約67,500枚（約3,375万円相当）を束にした『Mountain』では、作品の価格についての考察を促します。インスタレーション『Bird Net』は、防鳥網に鳥や植物、昆虫、動物などの使用済み切手を絡めた作品で、「世界はつながっている」コンセプトのもとに2004年以来、継続して発表しています。

切手が「時間」と「物質」を運び、「伝えること」「繋がること」の豊かさを「2018春」爛漫の空間の下に構成致します。

<太田三郎>

切手や消印を素材にした作品を手がけて30余年になります。本展では、いつか作品にしようとして所有していた大量の使用済み切手を「かたち」にしました。若いときにはつくれなかった肩の力を抜いた作品や、春にふさわしい心が開放されるような作品をつくりたいと思いました。

<展覧会情報>

タイトル：太田三郎 2018年春 Ota Saburo, 2018 Spring

展覧会会場：GALERIE ASHIYA SCHULE ギャラリーあしやシューレ

会 期：4月7日(土) - 5月6日(日) 11:00-17:00

<作家情報>

太田三郎 Saburo Ota

1950 山形県生まれ

1971 国立鶴岡工業高等専門学校機械工学科卒業

岡山県津山市在住

主な個展

2018 「太田三郎 2018年春」 ギャラリーあしやシューレ、兵庫

2017 「三鬼と三郎」 Space Seed、岡山

2014 「太田三郎展 2010-2014」 奈義町現代美術館、岡山

2009 「集めることはアートになる！」 鶴岡アートフォーラム、山形

2008 「太田三郎 HIROSHIMA 1990-2008」 大原美術館、岡山

「有隣荘・太田三郎・大原美術館」有隣荘、岡山

「太田三郎一日々」山形美術館

2007 「太田三郎 On the Beach 1987-2007」 奈義町現代美術館、岡山

2004 「バードネット 世界はつながっている」 丙申堂、山形

2003 「いのちを考える 太田三郎と中学生たち」 伊丹市立美術館、兵庫

2002 「太田三郎展」 美濃加茂市民ミュージアム、岐阜

2001 「On the Beach, Seed Project from KANAZAWA」 金沢市民芸術村、石川

2000 「Nagi Project 2000」 奈義町現代美術館、岡山

「存在と日常」 CCGA 現代グラフィックアートセンター、福島

「太田三郎 2000-2001」 西宮市大谷記念美術館、兵庫

1997 「太田三郎展—現代美術がうみだす切手と表現—」 財団法人 切手の博物館フィラテリーセンター、東京

主なグループ展

2017 「美術館×植物!? アートで植物採集」 西宮市大谷記念美術館、兵庫

2016 「コレクション・オンゴーイング」 東京都現代美術館、東京

岡山の美術展 第2期 太田三郎「Post War 66 戦災痕」 岡山県立美術館、岡山

龍野アートプロジェクト2016「国際芸術祭 時空の共振」 たつの市龍野町旧市街、兵庫

2015 「未見の星座 つながり／発見のプラクティス」 東京都現代美術館、東京

「目の目 手の目 心の目 体感の向こうに広がる世界」 岡山県立美術館、岡山

2014 「六甲ミーツ・アート・芸術散歩2014」 六甲山カンツリーハウス、兵庫

2013 「Ohara Contemporary」 大原美術館、岡山

2011 「戦争と日本近代美術」 板橋区立美術館、東京

「City_net Asia2011」 ソウル市立美術館

- 2010 「六甲ミーツ・アート・芸術散歩 2010」 六甲高山植物園、兵庫
- 2009 「KAMI 一静と動 現代日本の美術」 ザクセン州立美術館版画素描館、ドレスデン、ドイツ
- 2008 「20世紀の人間像」 群馬県立館林美術館
- 2007 「金庫室のゲルトシャイサー」 旧日本銀行広島支店
- 2005 「空と大地を旅する 太田三郎・栗田宏一展」 京都芸術センター
- 2003 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003」 川西町、新潟
- 2002 「イレブン・イレブン・コリア・ジャパン・コンテンポラリーアート 2002」 省谷美術館、ソウル
「20世紀。美術は虚像を認知した—モナ・リサとマンモンのあいだで—」 平塚市美術館、神奈川
- 2000 「夏草や兵どもが夢の跡：日本の現代美術」 ヴァルトシー会館／ベルリン・ドイツ 他巡回
- 1999 「時代の表情—反表情 日本の版画 1945-1999」 町田市立国際版画美術館、東京
「日本の現代写真展」 ベルリン近代美術館／ドイツ他ドイツ国内を巡回
- 1998 「メディアローグ：日本の現代写真 '98」 東京都写真美術館
「アート／生態系美術表現の「自然」と「制作」」 宇都宮美術館、栃木
「どないやねん 現代日本の創造力」 フランス国立高等美術学校、パリ
- 1997 「アートは楽しい8 複製時代」 ハラ ミュージアム アーク、群馬
- 1996 「現代東京版画事情 伝統と逸脱」 町田市立国際版画美術館、東京
「写楽再見 200年の時を超えて」 国際交流フォーラム、東京
「手と目の冒険広場 心を癒す植物—アート・ボタニカル・ガーデン」 目黒区美術館、東京
- 1995 「50年後彼らはなぜ戦争を表現するのか」 徳島県立近代美術館
- 1994 「人間の条件展 私たちは、どこへ向かうのか。」 スパイラル、東京／芦屋市立美術博物館、兵庫
「現代の人間像—わたしという存在証明」 北海道立近代美術館
「時間／美術 20世紀美術における時間の表現」 滋賀県立近代美術館
- 1991 「マニエラの交叉点 版画と映像表現の現在」 町田市立国際版画美術館、東京

主な受賞

- 2013 「第4回創造する伝統賞」
「第14回岡山芸術文化賞」 グランプリ
- 2016 「山陽新聞賞／文化功労」
「第17回福武文化賞」

主なパブリックコレクション

板橋区立美術館 S-HOUSE ミュージアム 一般財団法人 切手の博物館 大原美術館 岡山県立美術館 京都国立近代美術館
C C G A 現代グラフィックアートセンター ソウル国立現代美術館 東京国立近代美術館 東京都現代美術館
徳島県立近代美術館 独立行政法人 国際交流基金 ドレスデン版画素描館 奈義町現代美術館 西宮市大谷記念美術館
広島市現代美術館 釜山市立美術館 文化庁 北海道立帯広美術館 町田市立国際版画美術館 美濃加茂市民ミュージアム
山形美術館 横浜美術館 和歌山県立近代美術館

Galerie Ashiya Schule

659-0016 兵庫県芦屋市親王塚町 3-11 Tel 0797-20-6629

金曜日-火曜日 11:00-17:00 info@ashiyaschule.com www.ashiyaschle.com

Galerie Ashiya Schule | kyoto retreat

京都市左京区岡崎円勝寺町平安神宮鳥居前 完全予約制 by appointment only